

令和3年度 第2回地方独立行政法人京都市産業技術研究所

評価委員会 会議録

日時：令和3年10月1日（金）午後3時30分～午後5時

場所：京都市役所本庁舎1階 第1会議室

議題：（1）地方独立行政法人制度の概要について

（2）第3期中期目標（素案）について

（3）今後のスケジュールについて

議事要旨：

【1 開 会】

・北村 京都市産業・文化融合戦略監からの挨拶等

【2 議 題】

（1）地方独立行政法人制度の概要について

～事務局から資料1に基づき説明～

（2）第3期中期目標（素案）について

～京都市産業技術研究所から同研究所の業務概要について説明～

～事務局から資料2・資料3に基づき、第3期中期目標（案）について説明～

・以下、各委員の質問・意見など（○：委員，●：京都市，◎：産業技術研究所と表記）

○：京都市の案について、御意見・御質問はあるか。

○：産業技術研究所（以下、「産技研」という。）の業務概要の中で説明があった、「特許保有件数33件」については、どこに属するものか。

◎：産技研単独で保有している特許もあるが、その多くが企業との共同研究で共同出願したものである。

○：産技研単独で保有している特許を、ある企業が使用している場合、他の

ライバル会社からの使用申請は断れないということになるのか。

- ◎： 産技研でこういった特許を持っているのか広報をしたうえで、手挙げ方式としている。契約方法については、1社のみが使用できる独占契約と、実施料を安くし複数の企業が使用できる契約の2パターンあり、後者の場合は、ライバル企業でも使用可能になる。
- ： 共同研究の際、相手企業への説明をきっちりと行い、議事録をとっておかないと、後で揉めることも多いため、少し心配している。今までトラブルはなかったか。
- ◎： 適切に対応しており、今のところトラブルになったことはない。
- ： 現在、10の研究会があるが、長期的な視野に立ち、これからの成長産業として、新しい技術の芽が出てくると考えている。今後、産技研の中に、新しい技術に関する研究会を作ることが出来れば、対外的にも評価されるだけでなく、研究者にとって、モチベーションアップに繋がるのではないかと。この点についてはいかがお考えか。
- ◎： 産技研では、研究開発成果の社会実装を図っていくことを使命としているが、そこに結び付く「研究シーズ」を用意する必要がある。中期目標（案）に挙げているような社会課題の解決や地域企業に役立つ研究シーズを確立していく必要があると考えており、そういった研究開発は現在進行中である。その中には、外部資金を獲得し、次の新たなステージにチャレンジしている研究もあれば、研究内容を拡充し、論文投稿等を行っているものもある。今後も、基盤研究を発展させ、地域企業の事業に役立てていただきたいと考えている。
- ： 今日の日経新聞でノーベル賞を受賞した吉野彰さんの記事を読んだ。産技研の研究員の方々も、「創造と挑戦」の魂を持って、今後も取り組んでいただきたい。期待している。
- ： 中期目標（案）は分かりやすい言葉で書かれており、良くまとまっていると思う。

感想にはなるが、先週貰った萩の土産の作家が産技研の卒業生だった。京都で学んだ卒業生が、全国に散らばり、日本全体の産業を活性化していると

感じた。京都にこだわらず、人材育成を行っていることは素晴らしいと思う。

資料2の2ページで「産業技術研究所を取り巻く社会環境」について記載されているが、SDGs, DX の推進, コロナの3点が重要なポイントだと思う。これらをどのように克服し、次のステップに繋げるかが大切。コロナで新しい生活様式になってきているが、これまでのやり方だけでなく、ウィズコロナで新しいものを目指す、そしてそこにビジネスがあるというような、新しい生活様式を提供する産技研であって欲しいと思う。

そして、京都市行財政改革計画も重要なポイント。「受益者負担の適正化」は大変難しいが、納得していただけるような説明をし、取り組んでいく責任があると思う。

また、産技研職員が利用者にどのように接していくかも大切。毎日多くの利用者が来所されると思うが、利用者は産技研に縋りたい気持ちで来られる。技術があることを前提に、同じ目線でどう接するかが大切。私たちの業界でも、その人にどれだけ寄り添って同じ目線で一緒に考えられるか、相手がどれだけ打ち解けてくれるかが成功の鍵となる。その姿勢を前提とし、技術で課題を解決できる産技研であって欲しいと思う。

○： 約20年前から色々と勉強させていただいているが、産技研も段々と変わってきており、大変素晴らしいと感じている。利用者は、企業の中で解決が出来ない課題が出来たり、設備がない場合は、産技研に来て勉強する。また、産技研も利用者が来てくれることによって成長し、利用者と産技研の両方が切磋琢磨することで、持っている力が倍になったりする。今後も更に成長していただきたいと思う。

○： 私も本日概要をお伺いし、活発な取組をされているという認識を新たにしました。

中期目標（案）に関して、資料2の6ページを見ると、ニーズ把握→技術開発→実用化という流れになるが、中々完璧にはいかない。ウィズコロナ、アフターコロナにおいて、新規分野の技術開発となると、縦の連携が重要になってくる。組織としての力を高めていただく余地があるならば、是非お願いしたい。

○： 本日の審議を基に、事務局において、第3期中期目標の修正の検討をお願いする。

(3) 今後のスケジュールについて

～事務局から資料4に基づき説明～

【3 閉 会】

- ・西本 京都市産業技術研究所理事長からの挨拶等